

一人ひとりを大切にした 少人数教育で地域に根差す



聖和学園短期大学
学生課 キャリアアドバイザー
森川玲子

本学は1951年に開学した、全学生数約600名の小規模大学である。仏教精神を基とした「慈悲」と「和」そして「智慧」を学ぶことを建学の精神とし、地域で活躍できる人材を育てている。陸奥国分寺跡に創設された学舎を1987年に移転し、現在は仙台市北西部の住宅と緑に囲まれた閑静な環境の中に「キャリア開発総合学科」と「保育福祉学科」の2学科を置く。

地域総合学科として発足したキャリア開発総合学科は、製菓、カフェ・フード、ファッション、司書、公務員、医療事務、ビジネス情報・金融、観光・ホスピタリティ、スポーツの9分野からなる。学生は異なる分野のユニットを組み合わせて学ぶことができ、広い視野で学びながら進路を選択する。また、保育福祉学科は、保育と介護福祉の2専攻があり、それぞれ少子・高齢化時代を担う人材を育成している。

1 キャリア開発総合学科の 進路支援

キャリア開発総合学科では、1年次から2年次前期まで進路選択のための科目を必修としている。

1年次の「キャリア開発Ⅰ」では、全学生を5〜6名からなるグループに分け、「企業研究」を課題としたグループワークを行う。約2カ月間課題に取り組む中で、研究方法、企業訪問マナー、プレゼンテーション方法、グループコミュニケーションを学ぶ仕組みになっている。

2年次の「キャリア開発Ⅱ」では、

「ニーズ別演習」を実施している。自己分析から模擬面接に至るまで、学生は自分の就職活動の進み具合に応じた演習班を選ぶ。ニーズに合った指導を少人数で受けられるため、学生も意欲的に取り組んでいる。

授業やグループ指導は、学科の全教員と進路指導の職員が担当するのが本学の特徴である。多くの演習は同じゼミ生を意識的に別々にしたグループ設定のため、回を重ねるごとに学生同士の間関係が広がる。同様に、ゼミ担任以外の教職員との関係も広がり、どの教職員にも気軽に相談できる関係が作られている。

2 保育福祉学科の進路支援

保育・介護福祉専攻は1年次から段階を踏んだ実習を重ねる。短大で学んでは保育所や幼稚園、介護施設等で実習することを繰り返して、着実に実践力をつける。就職率は例年100%であるが、その全員が専門就職を叶えるのも本学の特徴である。多忙で厳しい日々の中、入学時の夢を持続し達成させるため、教員が一人ひとりを厚く丁寧にフォローし支えている。

3 基礎学力向上のために

基礎学力の向上も重要な課題と捉えている。学長自ら教壇に立つ公務員講座は、公務員志望者だけでなく、就職筆記試験対策を目的に聴講する学生も多い。社会人（公務員）で即戦力となるべく、実践を中心に構成されている。毎回、講義を踏まえての討議、レポー

ト、論作文といったアウトプットを繰り返す。

また、キャリア開発Ⅰ・Ⅱでは毎回、授業の冒頭に10分間の一般常識小テストを行い、それに準じた模擬試験を年4回行う。「学習の習慣付け」を狙うので、学生は着実に身につけている。

4 今後の「聖和」の取り組み

本学は学びを生かした地域での活動にも積極的に力を注いでいる。ファッション系のネイルサロン、製菓系のカフェ出店、保育専攻による子育て支援、スポーツ系の子どもサッカー教室など、多くの学生が地域の方との交流を通して成長している。また、YOSAKOI、すずめ踊り、ハンドベルなど学生の地域貢献活動は、短大を挙げて支援している。

これからは、地域活動に取り組んだ学生が自らの課題を見つけ、解決すべく学科や専攻の枠を越えて地域の方と協力する機会が多くなると思われる。そして、それらの経験が、問題解決力やコミュニケーション力を伸ばすことにつながることを考えている。

明るく清潔な校舎の中、いつも自然な挨拶が交わされる様子は気持ち良く、来校されたお客様からお褒めの言葉をいただく。教職員は学生に名前と呼びかけ、顔の見える関係は小規模短大ならではの特色である。一人ひとりを大切にできる仕組み、そのような雰囲気は本学の進路支援の特徴ではないかと考え、これからも継続していきたい。